

新年の挨拶

世界連邦運動協会 会長 大橋 光夫



2024年の年頭にあたり、ご挨拶を申し上げます。

まず、元日に発生しました能登半島地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。被災地の一刻も早い復興と安寧な日々が訪れることをひたすらお祈り申し上げます。

海部元総理大臣が亡くなられて空席になっておりました、世界連邦運動協会の会長に昨年3月に選任され、務めさせていただいております大橋光夫でございます。来たる3月で就任後1年になりますが、今後とも皆様と話し合い、共に真剣に取り組むことを約束します。長年に渡ってこの運動に関わってこられた皆様方に深甚なる敬意を表します。私も情熱では皆様に負けません。皆様の経験から学んで、熱意に支えていただきながら、皆様と共に世界連邦の実現のために尽力することをお誓い申し上げます。

就任後、世界連邦運動協会の総会や理事会等に参加し、さらには世界連邦日本国会委員会の総会や意見交換会、世界連邦宣言自治体全国協議会の総会、世界連邦日本宗教委員会による第41回世界連邦宗教者・信仰者川崎大師大会などにも参加し、運動協会だけでなく、世界連邦推進日本協議会の構成団体の活動の様子も拝見することができました。いずれの会合でも皆様の熱心な活動に感銘を受けました。と同時に、これらの活動がメディアなどでほとんど触られていないことについては、これからの大きな課題であると感じました。

現在、「世界連邦運動協会」は法人化を目指し、手続きを進めているところです。法人化によって社会的信用を増し、さらなる運動の高まりを図りたいと考えておりますので、皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年G7サミット開催前に広島に行き、原爆資料館で見たのは、幼い子供たちが焼け爛れて亡くなっていく姿でした。海外からもたくさんの人たちが訪れていましたが、これほど酷いとは思わなかったようでした。広島でこの時期にサミットが開催されたことは意味があると思っています。現実に慰霊碑の前で深々と亡くなった方々へのお祈りを致しました。自分自身も想像しませんでした。涙が出て止まりませんでした。こういう惨事を防ぐには、人類は

皆同志だとの思いで信頼し尊敬し、平和に反映していけるようにすることが必要で、そのためには世界連邦を実現することしか道がないと信じます。

一昨年2月のロシアによるウクライナへの侵攻ははまだ終わりを見せず、さらに昨年10月にはイスラエルとハマスの問題などが発生し、人類が互いに殺し合っている現実、人類の誕生を考えるならば実に愚かなことであります。

そもそも人類は、どうしてここにいるのか。学者のいろんな説がありますが、人類の共通の祖先が250万年前にアフリカで誕生し、そこから世界に広がっていったという説が最も有力であります。その後、人類は世界の各地で隣国との間に勝手に国境の線を引いて、領土争いを繰り返しています。

しかしながら、地球上の何処に住んでいるように、全ての人類、民族は同じ血でつながっているのです。ロシア人もウクライナ人もイスラエル人もパレスチナ人も、あるいは中国人もアメリカ人も、みんな血がながっているのです。その人たちが仲良くできないわけがない。人種の差別や国境などは、歴史をさかのぼれば、全く意味をなさないのであります。

私どもは、自らがどこに生まれてくるか、自分の意思で決めることはできません。神様が決めているのです。私自身もそのひと

り。生命の使い方は、一人ひとりに責任があるのですから、自分もどうやってその責任を地球上で果たすか、真剣に考えなければなりません。折角いただいた命ですか

ら、全ての人類のために少しでもお役に立つことが、一人残らず、私たち自身ができること、やるべきことだと、私は考えております。

世界人類に残らず平和が訪れる日が、私たちの努力で来るはずです。私の思いと決意を述べさせていただき、年頭のご挨拶に代えさせていただきます。

国会委員会が国連事務総長特別顧問 ガンバリ博士らと意見交換



2023年11月9日、世界連邦日本国会委員会は国連事務総長特別顧問イブラヒム・ガンバリ博士とホテル三日月グループの小高芳宗代表取締役社長を招き、「日本はグローバルサウスや国連とどう協力していくか」というテーマで意見交換会を開催した。



谷本真邦事務局次長の司会で開会し、衛藤征士郎会長が挨拶を行なった。衛藤会長は次の週までに日本政府がグローバルサウスへの経済協力を取りまとめるという予定を紹介し、グローバルサウスを含めた多くの国々とともに国連改革を目指す必要があると述べた。

続いて世界連邦運動協会の大橋光夫会長が英語で来賓挨拶を行なった。大橋会長はガンバリ博士が数日前に旭日重光章を受賞したことを紹介し、さらに「ガンバリ」という名前が日本語で「頑張る」という意味であることを述べて一同の笑顔を誘った。

ホテル三日月グループの小高芳宗代表取締役社長からコロナ禍初期に中国・武漢からの日本人旅行者受け入れを決めた時の話が以下のごとく語られた。「他のホテルから全て断られた中で、人



が困っている時こそ役に立たなければならぬとの思いで受け入れを決め、社員たちも賛成してくれた。受け入れが報道されると毎日脅迫電話がかかり、『ホテル三日月の社員の子どもは学校に来るな』という声もあった。たった2週間で当社のキャンセルが2万7000件もあった。そんな中で社員の子どもは『お父さんは正しいことをしているのだから我慢しよう』と気丈に振舞った。それでもしばらくすると、『ありがとう』というメッセージが宿泊者から届いたり、勝浦の砂浜に『負けるな』というメッセージが書かれたりするようになった。今、ホテル三日月はベトナムに進出し、日本の文化を発信したり、SDGsセンターを開設したりしている。今後もこうした取り組みで地球規模の課題に取り組んでいきたい。」



国連事務総長特別顧問イブラヒム・ガンバリ博士は次のように日本とグローバルサウスの連携の必要性を

語った。「国連が発足した1945年にはアフリカの国連加盟国は3カ国だったが、今では54カ国に達している。グローバルサウスが日本とG7の協力を必要としているように、日本とG7もグローバルサウスの貢献を必要としているのである。日本もアフリカも一丸となって国連を再構築し、戦争を防止し、より良い生活のために経済開発を促進し、人権と民主主義を堅持するといった、国連の目標と目的を推進するために努力しなければならない。」

その後、グローバルガバナンス推進委員会の長谷川祐弘座長をコーディネーターとして意見交換に入った。まず長谷川座長から「最近アフリカでは中国の存在感が増しており、日本の存在感が薄れていると聞いているが、ガンバリ博士の印象はどうであるか」と問いがあり、ガンバリ博士は「中国はインフラ整備や投資などアフリカで影響力のある国である。日本もTICAD(アフリカ開発機構)などを通じて技術的な協力や友好関係構築などを行なっている。特定の国を選ぶのではなく、共通の目的をもつ国であれば協力していきたい。」と答えた。

続いて国会議員各氏から意見表明・質問が行われた。



山東昭子参議院議員(自民): 世界母子栄養連盟の会長を務め、世界の子供達の低栄養を払拭するために活動していることを紹介し、また途上国で少女たちが通学時に性被害に

遭い、恐怖のあまり学校へ行けなくなっていることへの懸念を示した。



笠井亮衆議院議員（共産）：グローバルサウスの国々は、長年植民地支配の「負の遺産」と苦闘しながら、先進国に有利で不平等なルールの是正や、民主的な国際秩序を目指してきたこと、ワクチン格差や核実験による環境汚染や健康被害などの不正義に対して、声を上げて公正な世界を求めていることを評価した。



阿部知子衆議院議員（立憲）：グローバルサウスとして子供

たちの安全を守るために、どのような提案や活動をするか、日本がそれに協力していける道はあるかを問うた。



谷合正明参議院議員（公明）：ロシアとイスラエルが核兵器の使用を巡って脅威とも受け取れる発言をしたことを問題視し、日本がグローバルサウスと力を合わせて核のない世界を目指す覚悟の必要性を語った。



堂込麻紀子参議院議員（無所属）：過去に労働組合の役員を務めた経歴から、アフリカの労働者の現状を顧みての協力の必要性を語った。

他に篠原豪氏（衆・立憲）、羽田次郎氏（参・立憲）、青柳仁士氏（衆・維新）、浅川義治氏（衆・維新）、川合孝典氏（参・国民）も参加した。

国会議員以外からも次の各氏から発言があった。外務省総合外交政策局の藤本健太郎大使、世界銀行グループ駐日特別代表の米山泰揚氏、国際協力銀行常務取締役の大石一郎氏、国際協力機構上級審議役の平田仁氏、三菱UFJフィナンシャルグループマネージングディレクターの袖岡嘉憲氏。

最後に衛藤会長より閉会の挨拶があり、会は終了した。

（塩浜 修）

第42回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者 川崎大師大会を開催



2023年11月17日、「第42回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者川崎大師大会」が真言宗智山派大本山川崎大師平間寺で「世界平和実現のための道筋とは」を大会テーマとして開催された。コロナ禍などの影響でしばらく開催を見合わせていた中、2019年以来久しぶりの開催となった。

午前中は大本堂において、世界平和の祈りとして「特別大護摩祈願」が執り行われた。今大会の大会長、藤田隆乗師（川崎大師平間寺貫首）が大導師として表白を読み上げ、式衆が経を唱えるなか護摩を焚き上げた。そして主催者の世界連邦日本宗教委員会関係者

など宗派を超えた参加者が各様式で世界平和を祈願した。

昼食後、地下1階大講堂に移動した。開会式では全員が立ち上がり、念法真教の一宮良範教務総長による導師の言葉に続いて、「神仏の御恵みのもと真の世界平和のためお役に立たせてください」という趣旨の「祈りの言葉」を唱和した。

寒川神社の利根康教宮司による開会の辞の後、藤田隆乗大会長と黒住宗道副実行委員長（黒住教教主）による挨拶があった（黒住氏は田中恆清実行委員長長の挨拶の代読とともに自身の挨拶も行なった）。

来賓として世界連邦推進日本協議会の大橋光夫会長が「すべての人類はもともと血がつながっており、仲良くできないはずはない。自分も神仏によって命をいただいたひとりとして、世界

連邦実現のためにその命を使いたい。」という趣旨の挨拶を行なった。福田紀彦川崎市長、出雲大社の千家尊祐（せんげたかまさ）宮司からの祝辞も紹介された。



続いて神戸大学国際交流センター所長の岡部芳彦教授が「知られざる日本ウクライナ交流史」との演題で講演を行なった。

講演内容は多岐にわたった。たとえば、2019年に岡部教授がゼレンスキー大統領と会った際、スマートフォンでいっしょに写真を撮ろうとしたが、普段スマートフォンで写真を撮る習慣がなく、慣れていないため、もたついていたらゼレンスキー大統領が自身の手で撮ってくれ、その写真が大統領の公式サイトに載った話は印象深かった。また、ロシアが9～13世紀のキエフ・ルーシ国の後継国家とするのは岸田総理が徳川吉宗の経済政策を引き継いでいると考えるようなものであり、プーチン

氏の考えを「妄想の歴史観」と述べた。

多岐に渡る講演内容の中、ここでは特に岡部教授が「日本とウクライナの交流史は、いわば日本とウクライナの壮大なラブストーリーである」として紹介した数々のエピソードの部分に重点をおいて記したい。

・国際連盟協会の日本代表稲垣守克氏は 1930 年代にウクライナ亡命政府と接触していた。稲垣氏は戦後世界連邦建設同盟（筆者註：現世界連邦運動協会）の理事長に就任した。

・戦前において日本人はウクライナ人とロシア人の違いをよくわかっており、極東におけるウクライナ人口分布図なども作っていた。

・1930 年代、満州のハルビンでウクライナ人居留民会が運営した「ウクライナ・クラブ」の 1 階は日本人女学校に貸し出されており、ウクライナ人と日本の女学生や教員がひとつ屋根の下で暮らしていた。

・ハルビンでウクライナ語の週刊新

聞の編集長を務めていたイヴァン・スヴィット氏はウクライナ人を支えた人物として堀江一正の名前をあげている。堀江氏は近衛将校であり、ウクライナ系女性と結婚し、子供ももうけた。陸軍当局から「離婚すれば問題無しとする」と言われたが、堀江氏は「ここで母子を見捨てるのは将校として無責任である」と言って潔く退官の道を選び、ハルビンでウクライナ人居留民会の運営に協力した。

・ウクライナ民族主義のリーダー、フリホリー・クベツィキーを日本の特務機関が支援し、ソ連軍がハルビンに迫った時には彼らを脱出させるために特別列車を用意した。

・1953 年 5 月のシベリアの収容所に長期抑留されていた人々が「自由か死か」をスローガンに掲げてソ連当局に対して戦った。これを「ノリリスク蜂起」と言い、この時にウクライナ人と日本人は共に戦ったのである。この時の血染めの日章旗が日本に返還された際、

安倍晋三氏はこれを受け取り、「よく遠い所から帰ってきた」と言って私の前で涙を流した。

閉会式では「これ以上尊い命が無益に失われることがないように祈りをもって呼びかけることが必要不可欠である。英知を結集して世界平和の道筋をつくらう。」という趣旨の大会宣言文が満場一致で採択された。

閉会の挨拶では宍野野生副実行委員長が「講演内容は私たちが知らないことばかりだった。私たちの先輩が頑張ったこの道筋をたどり、どう後輩に伝えていくか考えなければならない。」と述べた。

その後、信徒会館 2 階大広間に会場を移してレセプションが開かれた。世界連邦運動協会の木戸寛孝理事長の乾杯で始まり、阿部昌宏常任顧問（天台宗宗務庁宗務総長）らの挨拶も交えながら和やかな時を迎え、全ての日程を終了した。

（塩浜 修）

真珠湾慰霊式典に参加

2023 年 12 月上旬、筆者はアメリカ合衆国ハワイ州にて、世界連邦日本宗教委員会が組織した「第 40 回ハワイ平和使節団」の行程と、日本国・アメリカ合衆国両国政府機関主催の記念式典の二つに、世界連邦日本国会委員会を代表して参加した。

前者のハワイ平和使節団は、1982 年 5 月アメリカ合衆国 NY 聖ヨハネ大聖堂で開催された日米宗教者会議の帰途、真珠湾で祈りを捧げたことがきっかけで組織され、真珠湾攻撃の時期に派遣されることになった。当初は攻撃をした側である「日本人は帰れ」と歓迎されないこともあったが、それでも毎年ハワイ平和祈念使節団を派遣し、祈りを捧げ続けた結果、徐々に誠意が伝わり、生存者、ご遺族、軍などからも認めてもらうようになったのである。

筆者は、2018 年（平成 30 年）12 月に開催された「第 40 回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者ハワイ大

会」と「真珠湾での祈りの会」に参加し、今回は第 40 回ということで「ハワイ平和祈念使節団」にも参加させていただいた。まず 12 月 6 日の午前中、ハワイにある神社仏閣等の宗教慰霊施設を訪問、午後は平和使節団と現地の宗教者・歴史家ら関係者と懇親会が行われ交流を深めた。翌 7 日には、午前中、アメリカ合衆国主催真珠湾攻撃 82 年記念式典 (82nd. Commemoration Legacy of Hope, National Pearl Harbor Remembrance)



に平和使節団として出席。午後、アメリカ軍基地を訪問し、基地内の慰霊施設で行われた祈りに参加した。これら一連の行程では、神道・教派神道・仏教・キリスト教・新宗教など、宗派

を超えて各々の様式作法により世界平和が祈られた。この光景は、世界連邦



日本宗教委員会の催事ではいつも拝見させていただいているが、日本のように政治経済が安定すれば宗教間の教義などの違いを超えて心をつなげることができるであろう。宗教戦争は政治が戦争・紛争に宗教を利用しているだけだと確信する。なお基地では一般の人が入ることができない「将校クラブ」を開放していただき昼食会が開かれ、世界連邦日本宗教委員会が長年かけて築いてきた信頼関係が感じられた。

翌 8 日には、日本国（在ホノルル総領事館）・アメリカ合衆国（海軍ハワイ方面司令部）主催の真珠湾慰霊式典（正

式名称 Lives Remembered: A tribute to fallen of Pearl Harbor) に参加した。これは真珠湾攻撃から 75 周年を迎えた 2016 年に当時のオバマ大統領と安倍総理が共に真珠湾を訪問し、この時から毎年開催している行事である。

こちらは世界連邦日本国会委員会として招待され、衛藤征士郎会長の特別メッセージを配布物に掲載していただいた。主催者の兒玉良則総領事とステファン・バーネット海軍提督、真珠湾ミズーリ記念館館長とともに、筆者にも登壇の機会を与えられ、会長メッセージとスピーチを披露する光栄にあずかった。その概要は「この地で 82 年前にあった不幸な歴史にあって、命を落

とされた方に心より哀悼の誠を捧げ、ご遺族に深い同情の意を示したい」ということと共に、犠牲者が眠るこの真珠湾の地で、日本に対して外交儀礼をつくし「君が代」を演奏していただいたアメリカ合衆国および海軍の方々の「寛容さに感謝」し、「現在ロシアによるウクライナ侵攻、戦闘状態にある中東地域、混迷する東アジア情勢の中にあつて、本式典が歴史を乗り越え、日米両国の和解、友好の象徴として継続し、両国及び世界中の人々の絆を深く進展させることを祈念したい」と述べたものである。降壇後、様々な参列者の人々から、挨拶と握手を求められ、ぜひ毎年参加してほしいとのご依頼をいただいた。



この式典は、長年にわたって平和使節団を組織してきた世界連邦日本宗教委員会をはじめとする多くの先人たちの努力の成果でもあるが、たとえ悲しい歴史があつても、外交でこれを乗り越え、寛容、和解、友好、そして平和が実現するということが実感できる貴重な機会だ。今後もこのような機会には積極的に参加していきたい。

(谷本 真邦)

「関東大震災100年事業 賀川豊彦とボランティア」 実行委員会主催 シンポジウムのお知らせ



2023 年は関東大震災から 100 年の節目です。賀川ボランティアを先導し、関東大震災被災者の救援に当たった賀川豊彦の活動を振り返り、将来起こりうる災害に備えて、多様な団体の結び直しを図る事業の実行委員会が結成され、シンポジウムが企画されました。第 1 回シンポジウムは 2023 年 10 月 21 日に開催済みです。2024 年は以下のシンポジウムが予定されています。

《第 2 回シンポジウム》

「たすけあい、ボランティア、働きを考える集い」について

100 年事業の一つとして、協同組合関係者や個人が連携し「集い」を準備しています。「たすけあい」に関心のある方は、どなたでもお気軽にご参加ください。

参加無料

日時：2024 年 2 月 3 日(土) 13 時 30 分～16 時 30 分

会場：連合会館・大会議室
(地下鉄：新御茶ノ水駅すぐ、JR：御茶ノ水駅徒歩 5 分)

定員：300 名

内容：「たすけあい」に関心のある方、協同組合の組合員・役職員が幅広く集い、映画『医師 中村哲の仕事・働くということ』(労協法成立記念)を観て、「たすけあい」「協同組合」などを語り合います。小島よしお氏(タレント)もビデオ出演。

申込フォーム：

<https://ws.formzu.net/fgen/S98402299/>

問合せ：松沢資料館 03-3302-2855

《第 3 回シンポジウム》

テーマ：「たすけあいの社会」を世界にまで広げよう！ 地球規模課題を前にして(仮称)

ー グローバルリスク、制度、ソーシャルアクティビティを考える ー

参加無料

日時：2024 年 3 月 30 日(土) 13 時 30 分～16 時 30 分 (予定)

会場：連合会館・203 号室

(地下鉄：新御茶ノ水駅すぐ、JR：御茶ノ水駅徒歩 5 分)

定員：108 名

講演：徳川宗家 19 代当主、公益財団法人徳川記念財団理事長 徳川家広氏、横浜市立大学国際教養学部教授 上村雄彦氏を予定しています。

内容：下記でご案内いたします。

ホームページ：関東大震災 100 年 with KAGAWA 賀川豊彦とボランティア (sinsai100.online)

問い合わせ：

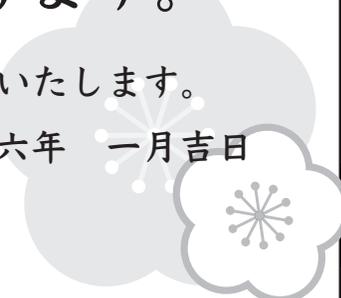
松沢資料館 03-3302-2855

賀川豊彦は震災ボランティアの開拓から、協同組合などの「たすけあい」の社会事業を発展させ、戦後は平和のための制度として世界連邦運動を牽引し実践してきました。賀川豊彦の精神を受け継ぎ、地球規模課題とその解決のための制度を共に考え、効果的なアクティビティーに取り組む契機となるようシンポジウムにご参加ください。

新年のご挨拶を申し上げます。

今後とも世界連邦運動をよろしくお願いいたします。

令和六年 一月吉日



<p>世界連邦運動協会神戸支部 支部長 池上 徹 事務局長 平岡五城</p>	<p>NPO法人 神戸平和研究所 理事長 柚 浩二</p>	<p>世界連邦近畿協議会 会長 三宅 光雄 事務局長 高畦 孝一</p>	<p>世界連邦運動協会副会長 中野 寛成 twitter @nakanokansei</p>	<p>世界連邦運動協会会長 大橋 光夫</p>
<p>世界連邦近畿フォーラム いま、一つの世界を 世界連邦宣言自治体全国協議会 会長 綾部市長 山崎 善也</p>	<p>世界連邦運動協会 愛善京都支部長 小佐々 晴夫</p>	<p>世界連邦運動協会広島支部 本部副会長・支部長 城 忠彰 理事長 神川 正紀 副支部長 河本浩一 副支部長 藤井 正一 副支部長・事務局長 森下 峯子</p>	<p>世界連邦運動協会 関東愛善会支部 支部長 税所 貴一</p>	<p>京都・大阪府支部 当支部では、今年も引き続き世界の恒久平和を築くために、大阪府内の小学校において、一人ひとりがこれからの世界平和について考える「出前・平和学習」を実施してまいります。 次世代を担う子どもたちのために！</p>
<p>綾部世界連邦運動協会 会長 高橋 輝</p>	<p>世界連邦運動協会 豊中支部 支部長 星野 慎一</p>	<p>大阪愛善会支部 支部長 伊藤 忠茂</p>	<p>世界連邦日本国会委員会 世界連邦日本国会委員会は本年十二月に七十五周年を迎えます。 衆参両院での世界連邦国会決議を受け、政府が世界連邦実現に向けて最大限の努力をするよう、国内外の同志の皆さんとともに働きかけて参ります</p>	<p>一般社団法人 世界連邦日本仏教徒協議会 電話 〇四五・七五〇・五五二六 FAX 〇四五・七五〇・五五二七</p>

<p>人類共栄会 三宅 光雄</p>	<p>大本部長 人類愛善会会長 小林 龍雄</p>	<p>世界連邦加古川支部長 鹿多 証道</p>	<p>商売繁盛・縁結び・合格祈願 千代保稻荷神社 〒503-0321 岐阜県海津市三郷1980 海津市宮八ノ海津羽島線 お千代保稻荷前バス停下車</p>	<p>世界連邦運動協会 四国ブロック協議会 愛媛県 松山市部 〃 新居浜支部 高知県 高知支部 徳島県 徳島支部 香川県 香川支部</p>
<p>世界連邦日本宗教委員会</p>	<p>世界連邦21世紀フォーラム支部 理事長 木戸寛孝 副理事長 野田武志 事務局 柴田修</p>	<p>有限会社 日本教育マネジメント 代表取締役 宮崎 太 〒770-0022 徳島市佐古二番町5-118 宮崎ビル</p>	<p>世界連邦運動協会 武蔵野支部</p>	<p>生前贈与・遺産整理 黒澤 合同事務所 司法書士 黒澤 功記 税理士 黒澤 功栄 公認会計士 東京都中野区中野四一四一一 電話 〇三二三三八八一九六三八</p>
	<p>株式会社 アキバ徽章販売 TEL 03-5491-5786</p>	<p>世界連邦運動協会 町田支部 支部長 小塩玄也 町田市玉川学園八一九一〇六 松香光夫方</p>	<p>世界連邦運動協会 はちどりクラブ支部 東京・新宿神楽坂 「はちどりクラブ」 代表 紺谷 昭子 (隆久 昌子) 支部長 紺谷 和久 </p>	

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。

普通会員年額5,000円
維持会員年額10,000円
賛助会員年額15,000円



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋2-15-17

リッツ虎ノ門4F-BC

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org

本部と支部の主な動き

*は本部・支部主催ではないが、世界連邦運動協会が加盟している団体の主催

1月1日	平和を考えるフォーラム支部学習会（オンライン）	2月4日	世界連邦文化教育推進協議会共催 富士山大賞授賞式
1月13日	はちどりクラブ新春フォーラム 令和六年度	2月21日	平和を考えるフォーラム支部学習会（オンライン）
1月18日	*核兵器廃絶日本 NGO 連絡会主催 I-CAN メリッサ・パーク事務局長と国会議員との討論会	3月3日	第52回世界連邦推進全国小・中学生 ポスター・作文コンクール表彰式
1月28日	世界連邦運動協会臨時総会		

編集後記

☆輪島の塩に魅せられ、「塩で皆を健康にしたい!! 元気にしたい!!」という想いから、2009年に25年間勤めた大手企業を退職し、輪島から50km沖にある舳倉島（へぐらじま）の海水で作られた海塩を全国販売する会社を設立した友人がいます。関東の実家に帰省していたので身体は無事だったのですが、輪島の会社と住居は全焼だったようです。まだ輪島には入れない状況の中、気仙沼のお菓子屋さんなどにこの先復興に向けてどのように進むのか、何ができるのか、精力的に話を聞いているようです。被災地域の皆様の安全確保と被災された皆様の生活が一日も早く平穩に復することを願ってやみません。（川口）☆昨年末のcop28（第28回気候変動枠組み条約締約国会議）ではフランスの主導で「開発・気候のための国際課税に関するタスクフォース」が創設された。気候変動は先進国が原因の多くをつくっているにもかかわらず、発展途上国が強い悪影響を受ける。国際課税により公正な負担を図ることに日本も協力するべきである。（塩浜）☆前号の「会員の声」欄に掲載した「金沢YMCAが“平和の集い2023”を開催（その1）」の続きを本号に投稿予定だったが、元旦に能登半島で地震が起きたことの影響もあって今回は執筆を見合わせ、次号に回すことを編集長に申し出て、代わりに前号程度の字数で編集後記の執筆をお願いしたところ、それを上回る1000字ほどという異例の後記となった。また、これほどの長文では段落を設ける必要があるが、強制行替えは本稿では適していないので、全角1字分のスペースを段落間に設けることにした。年明けてもウクライナ・ロシア間やパレスチナ・イスラエル間の戦乱はおさまらず、マスコミが伝える惨憺たる戦乱状況が能登半島地震の被災地の、まるで空襲を受けたかのような状況と重なって、胸が押しつぶされるような痛みを覚え、微力ながらもなんとかしなければという思いが募ってきた。実は、予定原稿の掲載延期は、能登半島地震のせいだけではなく、「平和の集い2023」の講演を踏まえて執筆するには改めて検討すべきことがあったからである。なお、能登半島地震が起きたとき、自宅1階のデスクでパソコンを使っていた私は、強い揺れに驚いて金沢が震源地かと思ったりいたが、揺れがおさまってからテレビをつけて震源地が奥能登であることを知り、屋内を点検して被害がほとんどなく、奈良県に住んでいる娘・孫たちと一緒に外出中の妻に携帯電話をかけ、無事であることも確認した。それはともかく、人間以外の高等哺乳動物でも縄張り争いにより同類間で死傷をもたらすことはあるが、人類集団間の戦争ほど酷い殺し合いをすることはない。特に都市文明が生まれてからは、戦争の武器や施設や組織は発達し、戦争被害の規模も惨事も増大してきた。人類学者は、現生人類に *Homo sapiens sapiens*（賢い賢いヒト）という学名を付けたが、賢人の名を返上しなければいけないほどの愚行の最たるものが戦争である。良くも悪くも内政は外交と密接な関係にあり、為政者が内政における権力維持のために民衆の目を外に向け、敵国に仕立てた国との戦争を始めることが繰り返されてきた。経済不況下で貧富の格差が増大するなか、政財界の不祥事が頻発すると、民衆の不満に乗り、ナチス/ヒトラーに代表されるような、妄想にかられた政党や人物が勢力を得て国を支配することになりかねない。そのようなことにならないように民主主義を正常に保つ、不断の努力が大切である。（平口）☆今年世界的な選挙イヤー。1月13日の台湾総統選を皮切りに、3月ロシア大統領選、4月韓国総選挙、そして11月にはアメリカ大統領選があります。世界情勢を見通す上で重要な一年となりそうです。今年もどうぞよろしくお願いいたします。（野田）☆本年の年始は、おめでとうございますとは言えない状況になってしまいました。この一年は、国内外の多くの災難に対して、自分は何ができるのかということを改めて考え、運動に邁進したいと思います。（谷本）

編集委員会 / 委員長：川口美貴 副委員長：塩浜修・平口哲夫
委員：野田武志・谷本真邦